

安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第2回)会議概要

1	審議会名	安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第2回)
2	日	時 令和6年12月23日 午後1時30分から午後3時まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎4階 大会議室
4	出席者	佐原委員長、小山田副委員長、降旗委員、井藤委員、安田委員、米山委員、帯刀委員、唐澤委員、吉澤委員、柳原委員、北村委員、阿部委員、藤本委員、山田委員、今溝委員、古幡委員
5	市側出席者	佐藤農林部長、高山農政課長、鈴木農業政策担当係長、農業政策担当小島主査、その他農政課、耕地林務課及び農業委員会所属の事業担当係長等
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和7年1月7日(火)

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会(小山田副委員長)
 - (2) 委員長挨拶(佐原委員長)
 - (3) 協議
 - ・令和5年度の点検評価結果について
 - ・第4次計画策定に向けた施策の方向性意見交換
 - (4) その他
 - (5) 閉会(小山田副委員長)
- 以下、協議の特記事項について記載する。

2 令和5年度の点検評価結果について

- ・鈴木係長より説明
- これを受け、点検評価結果全体につき、委員の総意として了承。

【主な意見と市の回答】

- ・「気候温暖化」について。私はりんごを作っているが、夏場が大変暑くて、日焼けがひどく、それが原因なのか劣化した実が多い。これへの対処方法がなかなか難しい。防除の薬剤などもあるようだが、やはり効果的な補助を頂いて、なるべくロスのない生産ができるように助けて頂けると有難い。

→農産物の被害対策の被害が大きくなっていると認識している。農業共済や収入保険で対応しているが、補助の要望を頂いたので、今後の検討課題とさせてほしい。農業再生協議会で協議することも検討したい。

- ・新規就農者の里親を引き受けており、ちょうど新規就農住宅が満室になると思われる。今後、農地が空いてくる中で、市外から就農希望者を集める際に住居が課題になると思われるが、空き家が増えている。空き家をうまく活用して住めるようにしていくことが必要。また、新規就農者は、農業資材・機械を買っても野ざらしにしてしまうことも多い。空き家・空き倉庫を紹介して頂けるように仲介して頂けたら大変助かる。そのような関係者の会議が集う会議が開催されるといいと思う。

→新規就農者の住宅については、現在、三郷と小倉に3棟用意しているが、利用率が非常に高く、空きがない状態。これと並行して、賃貸住宅の家賃補助を3年限定で補助している。空き家についても新規就農者用に活用できるか、検討を進めていきたい。

関連では、移住希望者のお試し住宅もある。

こうした事業をうまく使い分けながら対応を検討していきたい。

- ・人口減少により、担い手も農地も必然的に減り、空き農地が増える。戦略的にいまから農地を活用していくことが求められる。省力化にもつながる「スマート農業」を含めて、農地をどのように有効活用していくかについては、もう少し、行政にも力を入れて頂いて、経営的な観点をもって農地計画を進めて頂くことが必要である。いまこそ、担い手の問題に本当にしっかり取り組むことを考えて手を打つことが必要。また、農業委員会で地域計画を作っている。残すべき優良な農地を残すことが大切だが、一方で狭隘な農地もある。狭いからやめるとは言えない。どのような扱いをしていくか、山手の農地をどうしていくかも検討が必要になる。

→狭隘な農地に対する行政の対策としては、中山間地直接支払いという国の制度がある。中山間には独特の事情があるが、こうした国の制度を活用しながら地域の皆さんが農地を守っていくという取組みが現在も進んでいる。

3 第4次計画策定に向けた施策の方向性意見交換

- ・第3次安曇野市農業農村振興計画策定時よりコンサルタントとして携わっている SCOP の担当者より、「食料・農業・農村基本法の変遷、2024 年改訂内容、現行計画の特徴、今後の論点」について説明。

【主な意見と市の回答】

- ・説明の中に、「有機栽培」という言葉あったが、市内では有機栽培はどの程度の生産量があるのか。どのような作目があるのか。そのあたりのデータはあるのか。

→市の取組みということでは、現行計画でも取り扱っている重要な取組みと認識している。特に有機農法という表現をしているが、市で把握しているのは、有機 JAS を取得していることが1つの基準としている。ただ、市内農家の人数の統計はない。わかるのは、環境保全型農業を行う団体で、現在、4 団体、15 名程度である。栽培しているのは、水稲・そば・大豆・トマトなどと思われる。法に基づいた「有機農業」については、この程度の把握状況である。第4次基本計画にしっかりと位置付けるには、このあたりの把握は必要である。また、食育という切り口で有機野菜を学校給食の食材とすることについても、現在、検討しているところである。

- ・環境保全という意味では、肥料に関して、マイクロプラスチックの問題があると感じる。
→マイクロプラスチックが水田の外に出ってしまった場合の検証を以前に行い、対策を練ったことがある。水路に細かい網をつける対策を行ったところ、一部は止められたが、漏れている部分もあるという結果であった。引き続き検証していく。

- ・「地域計画」の作業状況について教えて欲しい。

→地域計画については、国の法律に従って来年3月末までに作成する予定。計画を立てた後も、毎年度更新していくもの。人口減少・担い手の減少を踏まえて、いかに少ない人数で地域の農業を営んでいけるかが、第4次基本計画についても特に重要な検討課題になると考えており、計画策定時には、十分に連携を図っていくことが必要と捉えている。

- ・生産体制に関して、JA としては、安曇野ブランドを維持していくためには、農業生産の基盤を維持することが最重要になると考えている。それが大きなテーマで、そのための手段に担い手確保やスマート農業を位置づけていくような整理が必要と考える。第4次基本計画においても、農業生産の維持を最重要課題に位置付けて頂きたい。

- ・マイクロプラスチックの問題については、JA としても非常に課題であると捉えており、

新しい肥料の開発を現在進めているところであるので、承知しておいて頂きたい。

4 その他

- 次年度の委員会は、令和7年7月頃に第 1 回を予定。開催通知を開催の1ヵ月前に送付予定。

以上